

# みやけの風

## 第 43 号

平成13年(2001年)8月18日(土)発行  
発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター  
発行責任者：上原 泰男  
東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階  
東京ボランティア・市民活動センター 気付  
TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646  
E-mail：tokyocenter@cmppo.org

「前にも言ってたけどよ、こんだぁ42号ひとつで2回分だじよ～」  
「量が多いで、郵便で来たな」「来週は休みだっちな」「だから」

## 「第3回三宅島島民ふれあい集会 ～考えよう！三宅島の今とこれから～」 開催決定！！

### 準備会を、8月26日(日)に開きます！

先日8月11日(土)に開かれた島民連絡会にて、第3回三宅島島民ふれあい集会を9月30日(日)に開催することが決定されました。会場については田町の芝浦小学校がよいのではないかという皆様のご意見により、三宅島支援東京センター事務局でも、準備を進めております。

集会の内容については、全島民の悲願でもあった一時帰島の後ということもあり、島民同士集まって、ゆっくり意見交換する場にするとすることを主な柱として、様々な立場でのご意見を聞くことも出来る機会にしてはどうかと考えています。

避難生活が次の一年に入ってい

く中で、島民一人一人がこれからの生活を考え始める時期になってきていると思われませんが、今後の避難生活を三宅島島民どうし支えあいながら、それぞれにとって、よりよい選択をするためにも、いろいろな方の考えを聞くことも一助になるのではないかと思います。

第3回三宅島島民ふれあい集会～考えよう！三宅島の今とこれから～を島民みんなで作り上げるため、8月26日(日)13:30～16:00に準備会を予定しています。

一時帰島前のそれどころではない時とは思いますが、是非、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

ご意見・お問合せは下記まで

第3回三宅島島民ふれあい集会実行委員会事務局

三宅島災害・東京ボランティア支援センター

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

セントラルプラザ10階 東京ボランティア・市民活動センター 気付

TEL:03-3290-7573 / FAX:03-5229-1646

## みんなの声

### (1) 一時帰島の意義

私共、泥流等被災者38名は7月11日竹芝棧橋を出発、翌朝6時三宅島三池港に上陸、バスで移動、自宅には3時間滞在、10時30分再びバスで港へ。早々に乗船、11時出航、夕方7時に竹芝に帰り着いた。この一時帰島は、被災者の為にも、行政にとっても全てにおいて意義深い行事であったと思う。帰りの船中で、それぞれに見た状況を報告しあったが、各自が自宅を確認した直後の報告は悲喜こもごもで、被害の大きさに愕然とした人、思ったより軽かった人、半々の割合であった。

今回の噴火は、三宅島の火山史に例を見ない経過をたどっている。その大きな特徴は、雄山山頂の陥没と、ガスの大量・長期噴出である。この終息が何時なのかかわからない中での行政も困窮していると思う。この時こそ、弱者(泥流被害で家を失った人、各地で介護を受けている人、三宅島の未来を担う子ども達、若年層の親達等)悲痛な声を真摯に受け止め、行政に反映させていただきたいと強く願うものである。

#### (今後帰島される方に提言)

1. 携帯すべき物として鍵穴用のCRC(さび止め)・パール(中型)・ハンマー・懐中電灯・携帯電話・カメラ(使い捨て)・飲み水・プラスとマイナスのドライバー
2. 衣類は軽く、替え着を持参することをおすすめする。
3. 持ち帰る品物は意外と多くなる。事前に「メモ」を用意し、入れ物は大型リュックとポストンバッグ
4. 自宅の位置が当日の風向きから風上か、危険な風下か、上陸した港で正しく確認して行動する。

(八王子市上柚木 奥山 彦一(坪田))

### (2) 一時帰宅

7月11日(火)19時、短時間なれど島に帰れる嬉しさと、その反面家屋被害状況の

確認という、複雑な心境で竹芝へと向かう。我々一時帰宅者38名と、村職員及び関係者等120数名合わせて160数名は、大勢の見送りを受けて21時竹芝より一路三宅島へ。船中では、村職員及び関係者の指示に従い、後続の皆さんに迷惑のかからない行動をしようと話し合う。

みんな、若干興奮しているのだろうか、朝の目覚めが早い。朝食後、ガスマスク装着講習を受け、三池港着岸前のデッキに出て、近くなる島を眺めるが、空港より三池に至っての山は茶褐色で、あの雄大な雄山の面影はなく落胆する。下船後、何台かのバスに分散し、各人が村職員・警察官各1名に伴われ自宅に向かう。

三宅村よりの被害調査結果で自分なりに想像していたが、

まず、外周に砂礫が約1m堆積している。出入り口の砂礫を最小限除去したが、ドアの握り玉が動かない。浴室の窓ガラスを割り、中に入る。屋内は床上に約10cmの泥が堆積、さらにその上約40cmの所に水位跡が見受けられる。畳とフローリングは、灰のごとく腐敗して歩くにも危険な状態。2階は若干カビくさいが、避難前と変わらない。

この地で以前の生活を営むには1階の全面大改修が必要だが、自宅の所在は釜の尻沢河川に隣接しており砂防が間近にある。今回の被害は、泥流がこの砂防を越えての被害と考えられる。帰宅後、行政にこの河川についての構想を伺い、今後の方向性を決めなければと思いつつ、予定時間より1時間早く10時30分自宅を後にバスにて三池港に向かう。島に滞在の皆さんに別れを告げ、離れゆく島をデッキで眺めていると強いガスのにおいに見舞われ、急ぎ船室に入る。衰えそうにないガス噴出量、島のシンボル雄山は「島に戻るのはまだ危険、もう少し東京で頑張りなさい」といっているようにも思われるが考えすぎだろうか。そのような事を考えながらも、船は予定通り7時

20分竹芝棧橋に接岸、帰路に着いた。

今回の一時帰宅に際し、持ち出す貴重品のリストアップ・錆落とし及び潤滑油にCRC・泥流により出入り不可能な場合は、適当な箇所のガラスを割る、また、その応急処置を想定し、ガムテープ・かなづち・釘・ノコギリ・懐中電灯・ネズミ薬・ナフタリンを持参したが、大いに役立ちました。以上が今回一時帰宅に際しての私の感想です。(北区桐ヶ丘 里中 茂男(神着))

### (3) 三宅島帰宅第1陣に参加して

先般、平成13年7月11日～12日に一時帰宅した泥流等被害家屋対象者38名は「はまゆう丸」に乗船、不安と喜びと交錯する中、竹芝を出航し、一路三宅島へ向かう。翌12日4時30分起床、朝食5時30分船内にてガスマスク装着の説明を受け、6時00分三池港に接岸上陸。6時30分我々伊ヶ谷地域の被害者9名、行政警視庁職員18名と総勢27名はバスに分乗、伊ヶ谷に向け、坪田～阿古経由で出発、約30分で伊ヶ谷に到着、被害者一人につき行政警視庁職員2名計3名の編成で自宅に向かう。被害状況を確認、想像以上の被害の大きさに“ただ茫然自失”するのみ。約2時間の中での作業であった。非常に限られた時間内であったので、貴重品を持ち出すのが精一杯であり、右往左往している間に時間が経過し、係員に促されてバスに向かう。帰りは伊豆、神着を経由して三池港に向かう。途中赤場暁付近に差し掛かると視界に薄青白い二酸化硫黄のガス、急遽バス運転手の指示に従い、一斉に窓を閉め走行する。途中、三池、沖ヶ平地区通過の際、樹木は茶褐色に枯れており、ガスの被害は想像以上に酷く、その猛威を目の当たりに実感した。一日も早いガス終息を祈るしかない。

帰りの船中で帰宅した全員で、各自被害の状況を確認し合うなど今後も相互に情報を交換し合うことで話し合いがなされた。互いに励まし合い、今回の一時帰島について、全ての面で良かったことを確認した。

それから、今回一時帰島して気がついた点、参考にしてください。

- 1、持ち帰るものは、ポストンバッグ2個と限定されているため、また、時間の制限もある関係から、予め持ち出す品のメモを必ず忘れずに。
- 2、鍵など金属の腐食がすごい、鍵が開かずトイレの窓から入ったという方もいるので、サビ止め(CRC)などの持参を薦めたい。
- 3、衣類の保存に必要な防虫剤、シロアリ等駆除剤を持参できればよいのではないのでしょうか。

(品川区八潮 梅田 政男(伊ヶ谷))

### (4) 一時帰島に参加して

私の場合は、運よく錆ヶ浜港の発着で移動に時間がかからず、そして、その日はたまたま、ガスの放出も少なく、うぐいすもさえずり、島の自然が美しく私たちを迎えてくれているようでした。

しかし、うちに着くと早速、シロアリの被害の酷さに驚き、今度来る時はシロアリ駆除剤を必ずもってくと決心。また、鍵もさび付いているのをCRCで溶かしてから、家に入りました。畳は、思いのほか無事でしたが、部屋中に灰が入っており、マスクをつけての作業になりました。ナフタリン、懐中電灯、電池、パールは役に立ちました。バルサンをたきたかったのですが、禁止。隣の人に様子を知らせたい、または、家から出て周りの写真を撮りたいと思って外に出ようとするたびに、行政職員と警察の方2名に「どこ行くんですか。外はだめですよ」と呼び止められ、厳しい見張りがぴったりと着いている中での帰宅でした。時間はあっという間で、前もって持ち出すもののメモを持っていったのよかったです。うっかり携帯電話の電源を切っていたため家人が私に連絡が取れず残念でした。私の所は、冷蔵庫を空にしてきていたのでよかったです。中に物を入れたままにしていたお宅では、うっかりドアを開けて臭いと虫で居られなかったそうです。

手荷物は、出来るだけリュックにして手を空け、怪我をしないように気をつけましょう。

(八王子市別所 沖倉 沖山 仙明)

**(5) 一時帰島時で感じたこと**

関係各機関に対して

- ・ 猛暑のなか大変ご苦労様でした。
- ・ 警備体制万全の為、見えない紐で縛られているような錯覚を感じた。
- ・ 到着桟橋で、各地域へ向かうバスにも乗り込むのに時間がかかった。
- ・ 船内で予め、配置をわかりやすく住民に伝えて欲しかった。

これから行なわれる一時帰島に思うこと

- ・ 自分の目的をはっきりしよう。(貴重品の持ち出し、住居の清掃、周りの状況の確認) 電気、水の供給は? ごみの収集は? 村役場に問い合わせよう。
- ・ いろいろ規制はあると思うが、まず第一に関係各機関の支持に実直に従おう。
- ・ 気がついたことは、大きな声で関係者に伝えよう。
- ・ 今回は人数が多い。船内での食事の配給など、率先して協力しよう。

関係各機関の方に要望

- ・ 各家庭にくんじょう殺虫剤の使用を許可してほしい。(今回は不許可)

- ・ 台風に対する養生をしたい場合は?(時間と手間と材料など)

個人的に感じたこと

前回の帰島に係った費用は莫大なものと思われます。今回はその何倍もの費用がかかることでしょう。そして、都や村の職員も数は決まっています。前回も、2日も続けて渡島している職員が多数居られました。今回は日数も増えてそれだけ職員の方の負担も大きくなります。その後には通常の職務があるわけで、疲れを癒す暇などありません。本当にご苦労様です。

今回の帰島で貴重品をもちだす人とは別に、家の掃除をしたいと考えている人がおりましたら、電気・水の供給を確認し、ごみの収集は可能か、また家の周りで可燃物を燃やすことはできるのか、しっかり把握した方が良いでしょう。

帰島して何をするのか...? 今、早急に必要なことは何か...? もっとよく考えたいと思います。(第1陣帰島者)

**)) 人材募集!! ))**

**「三宅島島民支援観光物産市」のお手伝い 大募集!!**

阿古会では、高円寺阿波踊りの会場で行なう「三宅島島民支援観光物産市」をお手伝いして下さる島民の方を募集しています。一緒に楽しくやりませんか?

日 時: 8月26日(日)~8月28日(火)の3日間  
13:00~21:30(いずれか1日でも可)

場 所: 高円寺純情商店街 (JR・地下鉄東西線高円寺駅北口)

募集人員: 概ね55歳以上・男女不問・3日間で延べ30人(実質7名程度)

待 遇: 日当・交通費込みで7500円、夕食弁当支給

お問合せ・募集受付: 三宅島阿古会事務局長 町永 俊江(旧姓北川)

TEL: 0489-96-3590 / 090-1261-4052

**特別養護老人ホーム「あじさいの里」のいきいき健康教室**

8月のテーマ: 『夏バテ対策』

時間: 14:00 ~ 15:30

お問合せ先: あじさいの里

TEL: 03-3459-8388

日 程	場 所
8月21日(火)	江戸川区コーシャハイム集会所
8月23日(木)	町田市市民フォーラム
8月26日(日)	港区港南三丁目アパート集会所
8月28日(火)	立川市大山団地A集会所